

益田明美さんを悼む

若林敬子

明治学院大学助手益田明美さんが、九月一三日にご逝去なさいましたことに、心からのお悔みを申し上げます。私は、あなたが大学院に入られました昭和四二年に福武先生の金浦町調査にご一緒させていただいて以来、村研を通して数少ない女性友達としておつきあいさせていただきましたね。

なんとしても、昭和一九年生れの若き女性が、研究も結婚もこれからといった蕾のままに散ってしまわれたことへの寂しさはたとえようがなく、一途に悲しまれてなりません。あなたは半年に近い病の床で何を考え、何をくやんだでしょう。わき目もふらず 村問

題に全力をそそぎ、金浦、出稼ぎ、君津、狛江と次々と調査をこな
し、村研事務局、明学助手としての雑事にも手をぬくことを知らず、
真摯にとりくんでいる態度は、周囲の人々に強い感動をよび起こす
迫力を秘めておられました。研究・諸事にまっ正面から打ちひか
意欲と責任感、やさしい心づかいは、同年の私にとってただだ頭
のさがるおもいでした。

「ずっと前に書いてきたのが、やっと活字になりましたのよ」
と、素直な喜びを顔に表わしつつ報告書をさしださくださったのが
村研でおあいした最後であり、あれ程熱心だった村研研究会にパタ
リと顔をみせられなくなられたのは春でした。疑問に思ってお電
話してみた六月にはもう面会も許されない程だと知り、心を痛めて
おりましたのに。いうまでもなく、今日の学界において、若き女性
学徒が、一人前の研究者として独立した道を歩みはじめようとする
ことは容易なことではありません。社会福祉も学び、中国語も堪能
であり、家庭的にも恵まれたクリスチャンでもあるという多彩な面
を秘めつつも、ただひたすら純朴な意欲と明確な問題意識を村落研
究一本に注ぎ、努力し、そして、若い命を散らしてしまった尊い友
に、心からの哀悼の意を表したいと思えます。